



Red Hat Fuse 7.5

Red Hat Fuse 7.5 のリリースノート

Red Hat Fuse の新機能

Red Hat Fuse 7.5 Red Hat Fuse 7.5 のリリースノート

Red Hat Fuse の新機能

法律上の通知

Copyright © 2023 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

本リリースノートは、Red Hat Fuse のリリース間で変更になった内容の概要を取り上げます。

目次

第1章 FUSE 7.5 の製品概要	3
1.1. FUSE のディストリビューション	3
1.2. 新機能	3
1.3. サポートされる設定	3
第2章 FUSE ONLINE	5
2.1. FUSE ONLINE ディストリビューション	5
2.2. FUSE ONLINE 7.5 の新機能	5
2.3. FUSE ONLINE 7.5 での変更点	6
2.4. OPENSIFT ONLINE で実行されている既存インテグレーションのアップグレード	6
2.5. 重要事項	7
2.6. テクニカルサポートの利用	7
2.7. テクノロジープレビューの機能	8
第3章 FUSE ON OPENSIFT	9
3.1. OPENSIFT のサポート対象バージョン	9
3.2. サポートされるイメージ	9
3.3. FUSE 7.5 の新機能	9
3.4. テクノロジープレビューの機能	9
3.5. 重要事項	10
第4章 FUSE スタンドアロン	11
4.1. サポートされるコンテナ	11
4.2. FUSE 7.5 の新機能	11
4.3. テクノロジープレビューの機能	11
4.4. FUSE 7.5 の BOM ファイル	13
4.5. 重要事項	14
第5章 非推奨となった機能および削除された機能	15
5.1. 非推奨となった機能	15
5.2. FUSE 7.5 で削除された機能	15
5.3. FUSE 7.3 で削除された機能	15
5.4. FUSE 7.2 で削除された機能	16
5.5. FUSE 7.0 で削除された機能	16
5.6. FUSE 7.0 で置き換えられた機能	18
第6章 FUSE 7.5 ではサポートされない機能	19
第7章 既知の問題	20
7.1. CVE セキュリティ脆弱性	20
7.2. FUSE ONLINE	21
7.3. FUSE ON OPENSIFT	23
7.4. FUSE ON SPRING BOOT	24
7.5. FUSE ON APACHE KARAF	24
7.6. APACHE CAMEL	25
第8章 FUSE 7.5.1 で解決された問題	27
第9章 FUSE 7.5 で修正された問題	28
9.1. FUSE 7.5 で改良された機能	28
9.2. FUSE 7.5 の機能リクエスト	29
9.3. FUSE 7.5 で明確化された機能	30
9.4. FUSE 7.5 で解決されたバグ	31

第1章 FUSE 7.5 の製品概要

1.1. FUSE のディストリビューション

Fuse 7.5 は、以下の3つのディストリビューションで提供されます。

Fuse スタンドアロン

複数のオペレーティングシステム上でサポートされる従来の Fuse ディストリビューションです。このディストリビューションは以下のコンテナタイプでサポートされます。

- Apache Karaf
- JBoss Enterprise Application Platform (EAP)
- Spring Boot

Fuse on OpenShift

OpenShift でインテグレーションアプリケーションを実行するための Fuse ディストリビューションです (Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムでサポートされます)。このディストリビューションでは、サポートされるコンテナタイプは docker 形式のコンテナイメージで提供されます。

- Java イメージ (Spring Boot 用)
- Apache Karaf イメージ
- JBoss EAP イメージ

Fuse Online

ブラウザーベースの UI を使用して簡単なワークフローにアクセスできる、インテグレーション初心者向けの Fuse ディストリビューションです。このディストリビューションは以下のようなデプロイメントで使用できます。

- OpenShift Online Professional 層での事前インストール
- [Red Hat Managed Integration](#) クラスター上のデプロイメント
- オンプレミス Openshift クラスターのインストール

1.2. 新機能

Fuse 7.5 には、主要なコンポーネントのアップグレードや新機能が多く含まれています。詳細は、各 Fuse ディストリビューションの**新機能**のセクションを参照してください。

- [Fuse Online の新機能](#)
- [Fuse on OpenShift の新機能](#)
- [Fuse スタンドアロンの新機能](#)

1.3. サポートされる設定

バージョン 7.5 でサポートされる設定、標準仕様、およびコンポーネントに関する詳細は、以下のカスタマーポータルの記事を参照してください。

- [Red Hat Fuse でサポートされる設定](#)
- [Red Hat Fuse でサポートされる標準](#)
- [Red Hat Fuse - コンポーネントの詳細](#)

第2章 FUSE ONLINE

Fuse Online は、コードを作成せずに複数の異なるアプリケーションやサービスの統合を可能にする Web ブラウザーインターフェイスを提供します。また、複雑なユースケースで必要な場合にコードを追加できる機能も提供します。

Fuse Online では、OpenShift のインテグレーションは Apache Camel を使用する Spring Boot として実行されます。Camel K はテクノロジープレビューの機能であるため、追加のランタイムとして使用できます。

2.1. FUSE ONLINE ディストリビューション

Fuse Online は Red Hat の Web ベースのインテグレーションプラットフォームです。[Syndesis](#) は Fuse Online のオープンソースプロジェクトです。Fuse Online は以下のような OpenShift 環境で実行されます。

ホスト環境	インストール
OpenShift Online OpenShift Dedicated	Red Hat が Red Hat インフラストラクチャーに Fuse Online をインストールし、提供します。
OpenShift Container Platform	お客様がインストールし、管理します。

2.2. FUSE ONLINE 7.5 の新機能

Fuse Online 7.5 は以下の新機能を提供します。

- 前リリースではテクノロジープレビューであった以下のコネクターがサポートされるようになりました。
 - [Jira](#) を使用すると、Jira サーバーに接続して課題を取得、更新、または追加できます。
 - [Receive Email](#) を使用すると、IMAP または POP3 メールサーバーへのコネクションを作成し、メッセージを取得できます。
 - [Send Email](#) を使用すると、SMTP メールサーバーへのコネクションを作成し、メッセージを送信できます。
- [API プロバイダーインテグレーション](#)は、[エラーを処理するオペレーションフロー](#)をサポートするようになりました。
API プロバイダーインテグレーションのオペレーションを定義する OpenAPI ドキュメントで、各オペレーションの可能な戻りコードを指定できるようになりました。オペレーションのフローに追加する場合、可能な各コネクションのエラーをこれらの戻りコードの1つにマップできます。
- [条件付きフロー](#) がサポートされるようになりました。これは、これまでのリリースではテクノロジープレビューの機能でした。
Conditional Flows (条件付きフロー) ステップをシンプルなインテグレーションのフローまたは API プロバイダーのインテグレーションオペレーションフローに追加できます。**Conditional Flows** ステップを追加するときに、インテグレーションの1つ以上の条件を指定し、ランタイムにインテグレーションデータに対して評価を行います。条件ごとにフローを作成します。フローには、シンプルなインテグレーションに追加できるのと同じコネクションおよびステップを含めることができます。これにより、インテグレーションが操作するデータを基にして実行

パスを決定するインテグレーションを作成できます。**Conditional Flows** ステップを追加する場合、ほとんどのインテグレーションに適した基本的な条件式ビルダーを使用するか、または Camel Simple 言語で条件式を指定できるようにする高度な式ビルダーを使用するかを決定します。

2.3. FUSE ONLINE 7.5 での変更点

Fuse Online 7.5 では 7.4 の機能が以下のように変更されました。


- データマッパーの変更点
 - 複数のソースフィールドから1つのターゲットフィールドへのマッピングで、**Add**、**Average**、**Concatenate**、**Contains**、**Count**、**Divide**、**Format**、**ItemAt**、**Maximum**、**Minimum**、**Multiply**、および **Subtract** [変換の1つをソースフィールドに適用できるようになりました](#)。
 - コレクションフィールドから非コレクションフィールドへのマッピングは、ソース値を連結し、結果をターゲットフィールドに挿入するようになりました。以前のリリースでは、コレクションの最後の値のみがターゲットフィールドにマップされました。デフォルトの連結動作を変更する場合は、**Concatenate** 以外の変換をソースフィールドに適用できません。
 - 非コレクションフィールドからコレクションフィールドへのマッピングは、ソース値を区切り文字に分割し、分割された値ごとにコレクション要素を作成するようになりました。以前のリリースでは、ターゲットコレクションには常に1つの要素のみが含まれていました。
- オンプレミスで Fuse Online を OpenShift Container Platform (OCP) 上で稼働している場合、機能の変更は次のようになります。
 - **CONTROLLERS_EXPOSE_VIA3SCALE** サーバー環境変数の名前が **OPENSHIFT_MANAGEMENT_URL_FOR3SCALE** に変更されました。**OPENSHIFT_MANAGEMENT_URL_FOR3SCALE** 変数が特定の OpenShift プロジェクトに設定されている場合、そのプロジェクトの API プロバイダーインテグレーションの API が Red Hat 3scale によって検出可能であることがデフォルトの動作になります。
 - API プロバイダーインテグレーションでは、特定のインテグレーションの検出を無効にできるようになりました。これは、インテグレーションのパブリッシュ後に Fuse Online インテグレーションの概要で実行できます。
 - 特定の環境のインテグレーションをマーク付けするパブリック REST API エンドポイントには、既存の環境ラベルが必要になりました。つまり、インテグレーションに割り当てる前に環境ラベルを作成する必要があります。これまでのリリースでは、環境ラベルが存在しない場合はエンドポイントによって作成されていました。
 - Fuse Online のユーザーは OpenShift を設定しても、ユーザーの OpenShift アカウントへのアクセスに対して Fuse Online の承認を要求するページを回避できなくなりました。

2.4. OPENSIFT ONLINE で実行されている既存インテグレーションのアップグレード

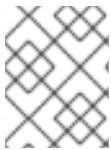
Fuse 7.5 のリリース時、OpenShift Online の Fuse Online インフラストラクチャーは自動的にアップグレードされます。インフラストラクチャーのアップグレード中、OpenShift Online で実行されている既存のインテグレーションはすべてアップグレード中とアップグレード後の実行が継続されます。しかし、既存のインテグレーションは古いバージョンの Fuse ライブラリーおよび依存関係で実行を継続します。

Fuse Online のインフラストラクチャーが新しいリリースにアップグレードされたことを知らせる電子メールのメッセージを受け取った後、既存のインテグレーションを再パブリッシュ (再起動だけではなく) してアップグレードします。これはできるだけ早期に行ってください。

Fuse Online 環境でインテグレーションを再パブリッシュするには、左側のナビゲーションパネルで **Integrations** をクリックします。その後、インテグレーションごとに以下を行います。

1. インテグレーションエントリーの右側で  をクリックし、**Edit** を選択します。
2. Fuse Online で編集するインテグレーションが表示されたら、右上の **Publish** をクリックします。

パブリッシュを行うと、最新の Fuse Online 依存関係を使用して再ビルドが強制されます。



注記

インテグレーションの要素に、更新の必要がある新しい依存関係がある場合、Fuse Online ユーザーインターフェイスに警告が表示されます。

2.5. 重要事項

Fuse Online ディストリビューションの Fuse 7.5 リリースにおける重要事項

- Fuse Online のインストール手順では、コンテナレジストリーが内部であることを前提としています。Fuse Online は、外部コンテナレジストリー、カスタムレジストリー、または非接続環境でのレジストリーの使用をサポートせず、テストもしません。
- Fuse Online 7.4 から 7.5.1 へのアップグレードは正常に行われます。[ENTESB-12327](#) および [ENTESB-12328](#) の問題が原因で、Fuse Online 7.4 から 7.5 へのアップグレードが正常に行われませんでした。これらの問題は Fuse Online 7.5.1 で解決しました。
- 本リリースでは、Kafka への接続は SSL をサポートしません。これは、今後のリリースで変更される予定です。
- Fuse Online アカウントは、同時に実行可能なインテグレーションの数が制限されています。詳細は、価格プランを参照してください。Fuse Online の評価版のアカウントをご使用の場合は、1度に1つのインテグレーションのみを実行できます。
- Fuse Online にアップロードする OpenAPI スキーマに出入力タイプが定義されていないことがあります。Fuse Online が出入力タイプを指定しない OpenAPI からカスタム API クライアントを作成した場合、API クライアントが処理できるフィールドにインテグレーションデータをマップするインテグレーションや、API クライアントが処理したフィールドから統合データをマップするインテグレーションを作成できません。インテグレーションにカスタム API をマップ先またはマップ元とするマッピングが必要な場合、OpenAPI スキーマをアップロードするときに **Review/Edit** をクリックして API 編集ツールの API Designer を開き、出入力タイプの指定を追加します。
- カスタム API クライアントコネクタまたは API プロバイダーインテグレーションに使用する OpenAPI ドキュメントは、循環スキーマ参照を持つことができません。たとえば、リクエストまたは応答ボディを指定する JSON スキーマは、そのスキーマ自体を全体的に参照することはできず、任意数の中間スキーマを介してそれ自体を部分的に参照することもできません。

2.6. テクニカルサポートの利用

テクニカルサポートを利用するには、Fuse Online の左ナビゲーションパネルで **Support** をクリックします。**Support** ページを使用して、すべてのインテグレーションに関する診断情報や、選択した1つまたは複数のインテグレーションに関する診断情報をダウンロードします。このページには、サポートチケットを作成するためのリンクや、ダウンロードした診断情報を提供するためのリンクもあります。

2.7. テクノロジープレビューの機能

本リリースには、以下に示すテクノロジープレビュー機能が含まれています。



重要

テクノロジープレビューの機能は、Red Hat の本番環境のサービスレベルアグリーメント (SLA) ではサポートされず、機能的に完全ではないことがあるため、Red Hat は本番環境での使用は推奨しません。テクノロジープレビューの機能は、最新の技術をいち早く提供して、開発段階で機能のテストやフィードバックの収集を可能にするために提供されます。詳細は、[テクノロジープレビュー機能のサポート範囲](#) を参照してください。

- Data Virtualization

オンサイトの OpenShift Container Platform 上で実行される Fuse Online の開発環境では、データ仮想化はコンテナネイティブなサービスです。これは、リレーショナルデータベース、ファイル、Web サービス、SaaS リポジトリなどの、複数の異なるソースからデータを統合します。Fuse Online では、開発者はソースデータの論理ビューをカスタムで定義する仮想データベースイメージを作成できます。作成後、そのイメージを OpenShift にデプロイすることができます。アプリケーションは、標準の OData、REST、または JDBC インターフェイス上で仮想データベースに接続し、SQL をサポートしないものも含め、すべてのデータソースで SQL クエリーを実行することができます。

Data Virtualization を有効にするには、[OCP での Fuse のインストール](#) を参照してください。

- 以下に対するコネクタです。

- [Amazon DynamoDB](#)
- [Box](#)
- [Knative](#)
- [MongoDB](#)

- [データフィールドをマッピングするための条件式](#)

データマッパーでは、条件式を指定し、1つのデータマッピングに適用することができます。たとえば、条件式はソースフィールドの評価や、ソースフィールドが空の場合にターゲットフィールドに入力する方法を指定できます。指定できる式の限定セットは、Microsoft Excel の式に似ています。本リリースでは、条件式はコレクションであるフィールド参照できません。

- Camel K は追加のランタイムとして使用できます。

- OAuth を使用する REST API クライアントでは、API クライアントコネクタの作成時に、そのコネクタから作成する接続のデフォルト OAuth2 の動作を変更することができます。OpenAPI 仕様への Fuse Online ベンダーエクステンションは以下をサポートします。

- クライアントクレデンシャルをパラメーターとして提供。
- HTTP レスポンスステータスコードを基にした新しいアクセストークンの取得。

第3章 FUSE ON OPENSIFT

Fuse on OpenShift は、OpenShift Container Platform での Fuse アプリケーションのデプロイを可能にします。

3.1. OPENSIFT のサポート対象バージョン

Fuse on OpenShift が OpenShift Container Platform 4.1 でサポートされるようになりました。Fuse on OpenShift と使用する OpenShift Container Platform のサポート対象バージョンについては [Red Hat Fuse でサポートされる設定](#) を参照してください。

3.2. サポートされるイメージ

Fuse on OpenShift は以下の Docker 形式のイメージを提供します。

- **fuse7/fuse-java-openshift** – Spring Boot
- **fuse7/fuse-karaf-openshift** – Apache Karaf
- **fuse7/fuse-eap-openshift** – Red Hat JBoss Enterprise Application Platform
- **fuse7/fuse-console** – Fuse console
- **fuse7/fuse-console-operator** – Fuse Console Operator
- **fuse7/fuse-apicurito** – Apicurito REST API エディター
- **fuse7/fuse-apicurito-generator** – Apicurito REST アプリケーションジェネレーター
- **fuse7-tech-preview/fuse-apicurito-operator** – API Designer Operator

3.3. FUSE 7.5 の新機能

Fuse on OpenShift のバージョン 7.5 では、以下の新機能が提供されます。

- Spring Boot 2 ランタイムが OpenShift でサポートされるようになりました。
- Fuse on OpenShift が OpenShift 4.1 でサポートされるようになりました。
- Fuse Console operator:
Fuse Console operator は、OpenShift で Fuse Console をインストール、アップグレード、およびアンインストールする手順を簡易化します。Fuse Console Operator の使用方法に関する詳細は、[OpenShift 4.x での Fuse Console の設定](#) を参照してください。



注記

Fuse Console プロキシと Jolokia エージェントとの間の接続をセキュアにするため、クライアント証明書を生成、署名、およびデプロイする必要があります。これは、Fuse Console を OCP 4.x にインストールした後に管理者の手順として手作業で行う必要があります。

3.4. テクノロジープレビューの機能

以下の Fuse on OpenShift の機能は **テクノロジープレビュー** であるため、Fuse 7.5 ではサポートされません。

Data Virtualization

Red Hat Data Virtualization は、Teiid Data Virtualization プロジェクトをベースとする、コンテナネイティブなデータ仮想化サービスです。Red Hat Data Virtualization は、リレーショナルデータベース、ファイル、web サービス、SaaS リポジトリなどの複数の異種ソースからのデータを組み合わせます。詳細は、[Using Data Virtualization](#) を参照してください。

API Designer operator のインストール

OpenShift Container Platform 4.1 の Operator Hub から API Designer Operator をインストールできます。API Designer Operator は、テクノロジープレビューである Fuse on OpenShift の API Designer Operator へのアクセスを提供します。API Designer Operator は、OpenShift での API Designer のインストール、アップグレード、およびアンインストールの手順を簡単にします。API Designer operator のインストール方法の詳細は、[OpenShift 4.x サーバーでの Fuse イメージストリームおよびテンプレートのインストール](#) を参照してください。



注記

インストールされる API Designer Operator や API Designer インスタンスはサポートされません。これは、テクノロジープレビューの機能で、本番環境でのテストには適していません。

3.5. 重要事項

Fuse on OpenShift ディストリビューションの Fuse 7.5 リリースにおける重要事項

OpenShift 3.11 上の Fuse 7.5 では、Container Development Kit (CDK) 3.10 の使用が推奨されます。

開発者は CDK 3.10 を使用して OpenShift 3.11 でアプリケーションを試すことが推奨されます。CDK は OpenShift 4 では使用できません。



注記

CDK は開発者の利便性のためにのみ提供されますが、サポートされる OpenShift ディストリビューションではありません。

第4章 FUSE スタンドアロン

4.1. サポートされるコンテナー

Fuse スタンドアロン 7.5 は以下のランタイムコンテナーでサポートされます。

- Spring Boot 1 および Spring Boot 2 (スタンドアロン)
- Apache Karaf
- Red Hat JBoss Enterprise Application Platform (JBoss EAP)

4.2. FUSE 7.5 の新機能

Fuse スタンドアロンのバージョン 7.5 の主な新機能は次のとおりです。

再インストールしなくても EAP をアップグレードできるようになりました。

これまでの Fuse 7.x では、EAP を再インストールしてアップグレードし、再度デプロイメントする必要があります。Fuse 7.5 より、ホットパッチを適用して正常にアップグレードすることができます。詳細は、Installing on JBoss EAP の [Installing a Fuse hotfix patch on JBoss EAP](#) を参照してください。

4.3. テクノロジープレビューの機能

以下の Fuse スタンドアロンの機能は **テクノロジープレビュー** であるため、Fuse 7.5 ではサポートされません。

Saga EIP

Saga EIP (Enterprise Integration Pattern) はテクノロジープレビューの機能で、実稼働環境に適していない **インメモリ Saga サービスのみが対象になります**。LRA Saga サービスはサポート **されません**。詳細は Apache Camel Development Guide の [Saga EIP](#) を参照してください。

4.3.1. Apache Camel の Fuse Tooling サポート

Fuse Tooling は、Apache Camel 言語サポートエクステンションや、Visual Studio Code、Eclipse IDE、および Eclipse Che のプラグインを使用して、Camel アプリケーションの開発でクロスプラットフォームおよびクロス IDE を提供します。

Visual Studio Code では、WSDL を Camel Rest DSL サポートに提供するエクステンションを追加することもできます。

注記: これらの機能は、デフォルトで Red Hat CodeReady Studio の Fuse Tooling に含まれています。

Visual Studio Code の機能

[Language Support for Apache Camel](#) エクステンションは、Camel URI の以下の機能を提供します。

XML DSL および Java DSL の場合:

- エディターは入力時に Camel コンポーネント、属性、および属性値のリストでコード補完を提供します。
- Camel コンポーネントにマウスオーバーすると、エディターにコンポーネントの簡単な説明が表示されます ([Apache Camel component reference](#) から)。

- ファイルを編集すると、エディターは Camel コードで Apache Camel 検証チェックを実行します。

XML DSL の場合のみ:

- VS Code の **Outline** パネルおよび **Go > Go to Symbol in File** ナビゲーションパネルで、Camel コンテキストおよびルートに移動できます。
- エディターは入力時に **direct**、**direct VM**、**VM**、および **SEDA** コンポーネントの参照された ID に対し、コード補完を提供します。
- 開いているすべての Camel ファイルで **direct** および **direct VM** コンポーネントの参照を見つけることができます。

[WSDL 2 Camel Rest DSL](#) エクステンション ([wsdl2rest](#) 実装) は、WSDL を Camel Rest DSL サポートに提供します。既存の WSDL ファイルを指定すると、このエクステンションを使用して REST スタイルのアクセスの Camel Rest DSL + CXF ソリューションを生成できます。WSDL ファイルは、ローカルファイルシステム上またはアクセス可能な Web URL から見つけることができます。

Language Support for Apache Camel および WSDL to Camel Rest DSL 機能にアクセスするには、以下のエクステンションを1つまたは複数追加します。

[Apache Camel Extension Pack](#) によって以下の VS Code エクステンションがインストールされます。

- [Language Support for Apache Camel](#)
- [OpenShift Connector](#)
- [Java Extension Pack](#)
- [Spring Boot Extension Pack](#)
- [Project Initializer by Red Hat](#)
- [WSDL 2 Camel Rest DSL](#)

エクステンションを個別にインストールすることもできます。

詳細は、以下の README ファイルを参照してください。

- [Apache Camel Extension Pack](#) の README ファイル。
- [Apache Camel Language Server Protocol for Visual Studio Code](#) の README ファイル。
- [WSDL to Camel Rest DSL](#) の README ファイル。

Eclipse IDE 機能

Language Support for Apache Camel Eclipse プラグインは Camel URI に以下の機能を提供します。

XML DSL および Java DSL 両方の汎用 Eclipse テキストエディター: * エディターは入力時に Camel コンポーネント、属性、および属性値のリストでコード補完を提供します。* Camel コンポーネントにマウスオーバーすると、エディターにコンポーネントの簡単な説明が表示されます ([Apache Camel component reference](#) から)。

Eclipse XML または Java エディターを使用する場合は、自動補完機能のみが提供されます。

Language Support for Apache Camel機能にアクセスするには、Eclipse Marketplace から Eclipse プラグインをインストールします。詳細は、Apache Camel Language Server Protocol for Eclipse IDE の [README file](#) を参照してください。

Eclipse Che の機能

Eclipse Che 7 の **Language Support for Apache Camel**プラグインは、Camel URI および XML DSL のみに機能を提供します。

- エディターは入力時に Camel コンポーネント、属性、および属性値のリストでコード補完を提供します。
- Camel コンポーネントにマウスオーバーすると、エディターにコンポーネントの簡単な説明が表示されます ([Apache Camel component reference](#) から)。
- ファイルを保存すると、エディターによって Camel コードで Apache Camel 検証チェックが実行されます。

Eclipse Che 向けのこのプラグインをアクティベートするには、ワークスペースの設定を編集する必要があります。アクティベート方法の詳細は、[Red Hat Developers のブログエントリー](#) を参照してください。

4.4. FUSE 7.5 の BOM ファイル

サポートされる Fuse 7.5 アーティファクトを使用するために Maven プロジェクトを設定する場合は、本セクションで説明する BOM バージョンを使用してください。

4.4.1. BOM ファイル

Fuse スタンドアロンアプリケーションをアップグレードして 7.5 の依存関係を使用するには、Maven の **pom.xml** を編集し、下表にある BOM と Maven プラグインのバージョンを変更します。

表4.1 BOM を使用する 7.5 の Maven BOM およびプラグインバージョン

コンテナタイプ	Maven BOM またはプラグインアーティファクト groupId/artifactId	Fuse 7.5 向けのバージョン
Spring Boot 1	org.jboss.redhat-fuse/fuse-springboot-bom	7.5.0.fuse-750029-redhat-00002
	org.jboss.redhat-fuse/fabric8-maven-plugin	7.5.0.fuse-750029-redhat-00002
	org.jboss.redhat-fuse/spring-boot-maven-plugin	7.5.0.fuse-750029-redhat-00002
Spring Boot 2	org.jboss.redhat-fuse/fuse-springboot-bom	7.5.0.fuse-sb2-750029-redhat-00003
	org.jboss.redhat-fuse/fabric8-maven-plugin	7.5.0.fuse-sb2-750029-redhat-00003

コンテナタイプ	Maven BOM またはプラグインアーティファクト groupId/artifactId	Fuse 7.5 向けのバージョン
	org.jboss.redhat-fuse/spring-boot-maven-plugin	7.5.0.fuse-sb2-750029-redhat-00003
Apache Karaf	org.jboss.redhat-fuse/fuse-karaf-bom	7.5.0.fuse-750029-redhat-00002
	org.jboss.redhat-fuse/karaf-maven-plugin	7.5.0.fuse-750029-redhat-00002
JBoss EAP	org.jboss.redhat-fuse/fuse-eap-bom	7.5.0.fuse-750029-redhat-00002

BOM の使用に関する詳細は [Fuse Migration Guide](#) を参照してください。

4.5. 重要事項

Fuse スタンドアロンディストリビューションの Fuse 7.5 リリースにおける重要事項

JBoss EAP 7.2.3 (JBoss EAP 7.2 から) を使用するようにアップグレードされた Fuse on EAP

Fuse 7.5 リリースは、JBoss Enterprise Application Platform (EAP) 7.2.3 コンテナで実行されるようになりました (Fuse の前リリースの JBoss EAP 7.2 からアップグレード)。詳細は、[JBoss EAP 7.2.0 リリースノート](#) を参照してください。

ENTESB-10923: camel-linkedin クイックスタートが動作しない

camel-linkedin コンポーネントは Fuse 7.5 で削除されました。



重要

Fuse 7.5 で削除された **camel-linkedin** コンポーネントは、今後のリリースで復元される可能性があります。

第5章 非推奨となった機能および削除された機能

Fuse 7 の今後の変更に関するご質問やヘルプは、support@redhat.com にお問い合わせください。

5.1. 非推奨となった機能

以下の機能は Fuse 7.5 で非推奨となったため、今後のリリースで削除される可能性があります。

Camel アプリケーションで非推奨となった PHP、Python、および Ruby スクリプト言語

PHP、Python、および Ruby スクリプト言語は、Fuse 7.4 より Camel アプリケーションで非推奨となり、今後のリリースで削除される予定です。Camel コミュニティーでは、Camel 2.19 より PHP、Python、および Ruby が非推奨になりました ([CAMEL-10973](#) を参照)。これは、Apache Karaf、JBoss EAP、および Spring Boot のすべての Fuse コンテナタイプに適用されます。

非推奨となった HP-UX OS

HP-UX オペレーティングシステムは Fuse 7.2 より非推奨となり、このオペレーティングシステムのサポートは Fuse の今後のリリースで除外される可能性があります。JBoss EAP 7.2 コンテナではすでに HP-UX のサポートが除外されたため、JBoss EAP 7.2 で実行される Fuse on JBoss EAP の今後のバージョンは HP-UX ではサポートされません。

非推奨となった Camel MQTT コンポーネント

Camel MQTT コンポーネントは Fuse 7.0 で非推奨となり、Fuse の今後のリリースでは削除されます。このコンポーネントの代わりに、[Eclipse Paho](#) ライブラリーを使用して MQTT メッセージングプロトコルをサポートする Camel Paho コンポーネントを使用できます。

Linux 以外のオペレーティングシステムで非推奨となった Camel LevelDB コンポーネント

Camel LevelDB ([camel-leveldb](#)) コンポーネントは、Fuse 6.3 より Red Hat Enterprise Linux 以外のすべてのオペレーティングシステムで非推奨となりました。今後、Camel LevelDB コンポーネントは Red Hat Enterprise Linux でのみサポートされます。

非推奨となった Camel SJMS コンポーネントからの BatchMessage クラス

Camel SJMS コンポーネントからの BatchMessage クラスは Fuse 7 で非推奨となり (Apache Camel ではバージョン 2.17 より非推奨)、Apache Camel および Fuse の今後のバージョンで削除される可能性があります。

5.2. FUSE 7.5 で削除された機能

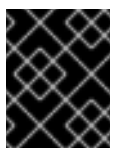
以下の機能は Fuse 7.5 で削除されました。

7.5 で廃止された MS SQL Server 2014 とのインテグレーションに対するサポート

MS SQL Server 2014 の Fuse 7.5 とのインテグレーションはテストおよびサポート対象外になりました。代わりに、MS SQL Server 2016 や 2017 などのより最近のバージョンの MS SQL Server を使用することが推奨されます。

7.5 で削除された Camel LinkedIn コンポーネント

camel-linkedin コンポーネントは Fuse 7.5 で削除されました。



重要

Fuse 7.5 で削除された **camel-linkedin** コンポーネントは、今後のリリースで復元される可能性があります。

5.3. FUSE 7.3 で削除された機能

以下の機能は Fuse 7.3 で削除されました。

7.3 で削除された Camel YQL コンポーネント

Camel YQL コンポーネントは Fuse 7.3 で削除されました。

7.3 でブラックリスト指定された OpenJPA および OpenJPA3 Karaf 機能

openjpa 機能および **openjpa3** 機能は 7.3 の Apache Karaf コンテナからブラックリスト指定 (削除) されました。Java Persistence Architecture (JPA) 実装では、代わりにサポートされる **hibernate** 機能を使用してください。

7.3 でブラックリスト指定された camel-jetty Karaf 機能

camel-jetty 機能は Jetty 8 を使用するため、7.3 の Apache Karaf コンテナからブラックリスト指定 (削除) されました。この代わりに **camel-jetty9** 機能を使用してください。

7.3 でブラックリスト指定された pax-jms-oracleaq Karaf 機能

pax-jms-oracleaq 機能はサードパーティーの無償でない Oracle AQ ライブラリーを必要とするため、7.3 の Apache Karaf コンテナからブラックリスト指定 (削除) されました。

7.3 の Fuse on EAP (Wildfly Camel) から削除された camel-elasticsearch コンポーネント

camel-elasticsearch コンポーネントは 7.3 の Fuse on EAP (Wildfly Camel) から削除されました。代わりに新しい **camel-elasticsearch-rest** コンポーネントを使用してください。

5.4. FUSE 7.2 で削除された機能

以下の機能は Fuse 7.2 で削除されました。

7.2 で削除された Camel XMLRPC コンポーネント

Camel XMLRPC コンポーネントは Fuse 7.2 で削除されました。

7.2 で削除された Camel Netty コンポーネント

Camel Netty コンポーネントは Fuse 7.2 で削除されました。この代わりに Camel Netty4 コンポーネントを使用することが推奨されます。

5.5. FUSE 7.0 で削除された機能

以下の機能は Fuse 7.0 で削除されました。

7.0 でサポートが除外された Red Hat JBoss Operations Network (JON)

Fuse 7.0 より Fuse on Karaf は JON をサポートしなくなり、JON ランタイムと統合するための JON プラグインの提供を停止しました。

7.0 で削除された組み込み ActiveMQ ブローカー

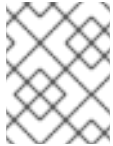
Fuse 7.0 より Fuse on Karaf は組み込み ActiveMQ ブローカーの提供を停止しました。そのため、サポートされるリモートブローカーへ直接接続するようにしてください。サポートされるブローカーの詳細は [Red Hat Fuse でサポートされる設定](#) のサポートされるメッセージングプロバイダーを参照してください。

7.0 で削除された Fuse インテグレーションパック

ルールやプロセスの実行に対するサポートは、Red Hat JBoss BPM Suite および Red Hat JBoss BRMS に含まれるコンポーネントによって提供されます。

7.0 で削除された子コンテナ管理用の Karaf コンソールコマンド

Fuse 7.0 より、子コンテナ管理用の Karaf コンソールコマンドはサポートされて **いません**。対象となる **instance:** (Karaf 4.x 構文) で始まるコンソールコマンドと、**admin:** (Karaf 2.x 構文) で始まるコンソールコマンドはサポートされません。



注記

Fuse 7.0 GA リリースでは、**instance:** コマンドはブラックリストに登録されていません。これは既知の問題です。

7.0 で削除された Switch Yard

Switch Yard は Fuse 7.0 で削除され、代わりに Apache Camel を直接使用する必要があります。詳細は、ナレッジベースの [SwitchYard Support Plan After Releasing Fuse 7](#) を参照してください。

7.0 で除外された Fabric8 1.x のサポート

Fuse 7.0 で Fabric8 v1 は Fabric8 v2 のコンポーネントが含まれる Fuse on OpenShift (旧名称 Fuse Integration Services) に置き換えられました。Fuse on OpenShift は、OpenShift 内でインテグレーションマイクロサービスの開発、デプロイメント、および管理を可能にするツールのセットと Docker 形式のイメージを提供します。

Fuse on OpenShift のアーキテクチャは異なりますが、Fabric 8 v1 が提供する同じプロビジョニング、自動化、中央設定、管理要件に対応します。詳細は [Fuse on OpenShift ガイド](#) を参照してください。

7.0 で削除された Google App Engine の Camel コンポーネント

Google App Engine の Camel コンポーネント (**camel-gae**) は Fuse 7.0 で削除されました。

7.0 で削除された Camel jBPM コンポーネント

Camel jBPM コンポーネント (**camel-jbpm**) は Fuse 7.0 で削除されました。

7.0 で削除された Fuse をサービスとしてインストールするための Tanuki ベースのラッパー

Fuse をサービスとしてインストールするための Tanuki ベースのラッパースクリプト (**wrapper:install** Karaf コンソールコマンドを使用して生成) は Fuse 7.0 で削除されました。Apache Karaf コンテナをサービスとしてインストールする場合、この代わりに **bin/contrib** ディレクトリから新しい **karaf-service-*.sh** スクリプトを使用することが推奨されます。

7.0 で削除された Smooks

Switch Yard の Smooks コンポーネントは Fuse 7.0 で削除されました。

7.0 で削除された BPEL

[Riftsaw](#) プロジェクトをベースとする BPEL は Fuse 7.0 で削除されました。BPEL を現在使用している場合は、Red Hat JBoss BPM Suite への移行を考慮することが推奨されます。

7.0 で削除された Design Time Governance

Design Time Governance コンポーネントは Fuse 7.0 で削除されました。

7.0 で削除された Runtime Governance

Runtime Governance (RTGov) コンポーネントは Fuse 7.0 で削除されました。

7.0 で削除された S-RAMP

S-RAMP (SOA Repository Artifact Model and Protocol) コンポーネントは Fuse 7.0 で削除されました。

7.0 で削除された bin/patch スクリプト

bin/patch スクリプト (Windows O/S では **bin\patch.bat**) は Fuse 7.0 で削除されました。

7.0 でサポートされない Spring-DM (Spring Dynamic Modules)

Spring XML を Apache Karaf の OSGi サービスレイヤーと統合する Spring-DM は Fuse 7.0 ではサポートされないため、代わりに Blueprint フレームワークを使用する必要があります。Blueprint XML を使用しても、Spring フレームワークから Java ライブラリーを使用することはできます。最新バージョンの Spring は Blueprint と互換性があります。

7.0 でサポートされない Apache OpenJPA

JPA (Java Persistence API) の [Apache OpenJPA](#) 実装は Fuse 7.0 ではサポートされません。代わりに [Hibernate](#) 実装を使用することが推奨されます。

5.6. FUSE 7.0 で置き換えられた機能

以下の機能は Fuse 7.0 で置き換えられました。

7.0 で置き換えられた Geronimo トランザクションマネージャー

Fuse 7.0 では Karaf コンテナの Geronimo トランザクションマネージャーが [Narayana](#) に置き換えられました。

7.0 で置き換えられた Jetty コンテナ

Fuse 7.0 では Jetty コンテナが [Undertow](#) によって置き換えられました。この変更は最初に Jetty コンテナの内部使用のみ (Karaf コンテナ内など) に適用されます。他の Jetty コンポーネントは今後のリリースで削除される可能性があります。

第6章 FUSE 7.5 ではサポートされない機能

以下の機能は、Red Hat Fuse 7.5 ではサポートされません。

サポートされない Apache Karaf EclipseLink 機能

Apache Karaf EclipseLink 機能は Fuse ではサポートされません。この機能は JPA 2.2 に依存しますが、Fuse 7.2 の Karaf コンテナは JPA 2.1 と関連しているからです。

サポートされない Apache Aries Blueprint Web モジュール

Apache Aries [Blueprint Web](#) モジュールは Fuse ではサポートされません。Apache Camel のコミュニティ版で Blueprint Web を使用している例がありますが (個別ダウンロードとして提供)、Fuse でのサポートを意味するものではありません。

Apache Karaf の Apache Camel でサポートされない PHP スクリプト言語

PHP の OSGi バンドルがないため、PHP スクリプト言語は Apache Karaf コンテナ上の Camel アプリケーションでサポートされません。PHP スクリプト言語は、JBoss EAP コンテナおよび Spring Boot コンテナ上の Camel アプリケーションでは非推奨になりました。

Apache Karaf の Apache Camel でサポートされない Python スクリプト言語

Python の OSGi バンドルがないため、Python スクリプト言語は Apache Karaf コンテナ上の Camel アプリケーションでサポートされません。Python スクリプト言語は、JBoss EAP コンテナおよび Spring Boot コンテナ上の Camel アプリケーションでは非推奨になりました。

第7章 既知の問題

以下の項ではバージョン 7.5 の既知の問題について説明します。

7.1. CVE セキュリティー脆弱性

Fuse はミドルウェア統合プラットフォームであるため、多くのサードパーティーコンポーネントと統合される可能性があります。そのため、サードパーティーの依存関係の一部にセキュリティの脆弱性がある可能性を常に排除することは困難です。ここでは、Fuse 7.5 のサードパーティーの依存関係に影響する既知のセキュリティ脆弱性について説明します。

ENTESB-12489 CVE-2019-9827 - Fuse Console standalone on Amazon Web Services

セキュリティの懸念があるため、スタンドアロンの Fuse アプリケーションを Amazon Web Services (AWS) にデプロイしないでください。この制限は、サポートされるすべてのスタンドアロン環境 (Spring Boot 1.x および 2.x、Karaf、および Red Hat JBoss Enterprise Application Platform) に適用されます。AWS に Fuse Console スタンドアロンをデプロイする場合は、**hawtio.disableProxy** システムプロパティを **true** に設定して、Fuse 7.7 以降にアップグレードし、Fuse Console のプロキシサーバーレットを無効にすることが強く推奨されます。

CVE-2017-12629 Solr/Lucene -security bypass to access sensitive data - CVE-2017-12629

Apache Solr は、Apache Lucene 検索エンジンを使用する一般的なオープンソースの検索プラットフォームです。アプリケーションが Apache Solr と Apache Lucene の組み合わせ (Camel Solr コンポーネントを使用している場合など) を使用する場合、このセキュリティ脆弱性の影響を受ける可能性があります。この脆弱性の詳細と軽減策について、リンク先のセキュリティアドバイザリーを確認してください。



注記

Fuse ランタイムは Apache Solr や Apache Lucene を直接使用 **しません**。統合アプリケーションで Apache Solr と Apache Lucene を一緒に使用する場合のみセキュリティ上のリスクが発生します (Camel Solr コンポーネントを使用する場合など)。

複数の CVE jackson-databind セキュリティー脆弱性に関連する複数の CVE

FasterXML **jackson-databind** ライブラリーを使用し、JSON コンテンツをデシリアライズして Java オブジェクトをインスタンス化するアプリケーションは、潜在的に **リモートコード実行** 攻撃に脆弱です。しかし、脆弱性は自動的に発生せず、適切な軽減策を講じれば回避することができます。

最低でも以下の前提条件をすべて満たさなければ攻撃を実行することはできません。

1. **jackson-databind** の JSON コンテンツのデシリアライズに対し、ポリモーフィックな型の処理を有効にする必要があります。Jackson JSON でポリモーフィックな型の処理を有効にする方法は 2 つあります。
 - a. **@JsonTypeInfo** および **@JsonSubTypes** アノテーションの組み合わせを使用します。
 - b. **ObjectMapper.enableDefaultTyping()** メソッドを呼び出します。この方法はポリモーフィックな型をグローバルで有効にするため、危険です。
2. 現在のバージョンの **jackson-databind** によってブラックリストに指定されていない **ガジェットクラス** が 1 つ以上 Java クラスパスにあります。ガジェットクラスは、機密性の高い (潜在的に悪用可能な) 操作を、constructor または setter メソッド (デシリアライズ中に呼び出しできるメソッド) の実行による副次的な影響として定義します。Jackson JSON ライブラリーによって維持されるガジェットブラックリストは、リモートコード実行の脆弱性から守るための最後の手段になります。

jackson-databind の脆弱性に関して多くの CVE が存在するのは、多数のガジェットクラスが存在するためです。ガジェットクラスの種類別に異なる CVE が存在します。

アプリケーションで **jackson-databind** を使用する必要がある場合、Jackson JSON でポリモーフィックな型の処理を行わないようにし、**ObjectMapper.enableDefaultTyping()** メソッドを絶対に呼び出さないことが、リスクを軽減する最も重要な対策になります。

7.2. FUSE ONLINE

Fuse Online ディストリビューションの既知の問題は次のとおりです。

ENTESB-12327 Upgrade 7.4 → 7.5 stuck because of missing komodo image

Fuse Online 7.4 から 7.5 にアップグレードすると、イメージが見つからないため komodo-server Pod を 1 にスケールするとアップグレードプロセスが停止します。7.5.1 で解決されました。

ENTESB-12328 Postgres upgrade from 9.5 to 9.6 won't use the old data dir

Fuse Online 7.4 から 7.5 へのアップグレードで Postgres をバージョン 9.5 から 9.6 にアップグレードしようすると、アップグレードプロセスが失敗します。7.5.1 で解決されました。

ENTESB-12175 Camel-k integrations stay deployed even when deleted in UI

Fuse 7.5 にて、Camel K が有効な状態であるときに UI でインテグレーションを削除すると、Camel K インテグレーションは実行を継続しますが、Fuse Online に表示されません。この問題を回避するには、最初に UI でインテグレーションを停止し、**kamel delete** コマンドで削除します。

ENTESB-12174 API Provider running on camel-k has empty parameters

Fuse 7.5 では、Camel K が有効であるときに、クエリーパラメーターを使用する API Provider アクションを作成すると、パラメーターが空になります。

ENTESB-11780 E7: Upgrade from 7.4 using operatorhub (OCP4)

OperatorHub を使用して Fuse Online インストールを 7.4 から 7.5 にアップグレードすることはできません。Fuse Online 7.5 をクリーンインストールし、古い 7.4 インストールからインテグレーションを手動でエクスポートして、インテグレーションを新しい 7.5 インストールにインポートする必要があります。この問題は Fuse 7.6 で対処されます。

ENTESB-12040 Komodo server and syndesis-dv present after upgrade

Fuse Online のオンプレミスインストールを 7.4 から 7.5 にアップグレードした後、アップグレードされたクラスターに **komodo-server** Pod と **syndesis-dv** Pod の両方が存在します。**komodo-server** Pod は冗長であり、0 にスケールできます。

ENTESB-11633 Increase the default time on SQL queries

Fuse Online では、完了に時間がかかりすぎると SQL クエリーに失敗することがあります (たとえば、大規模なテーブルに適用されたクエリーなど)。Fuse Online の SQL クエリーのデフォルトタイムアウトは 15 秒です。この問題は Fuse 7.6 で修正されます。

ENTESB-11407 [1.7.8] No activities after small load (~80000 messages in 20hours)

パフォーマンステストの結果、アクティビティ追跡ロジックによって、アクティビティを追跡するために Fuse Online によって使用されるデータベースで非常に多くの無効なタプルが発生する可能性があることが判明しました。この問題により、特に UI からインテグレーションリストにアクセスする場合や、インテグレーションのアクティビティを更新する場合など、データベースからの読み取りが必要な操作が一般的に遅くなります。この問題の回避策は、SQL ステートメント **VACUUM FULL ANALYSE jsondb** を実行して、データベースの定期的なメンテナンスを実行することです。

以下にしたがって、定期的にメンテナンスを行います。

```
# check to see if there are dead tuples (not vacuumed)
$ oc exec -c postgresql $(oc get pod -l 'syndesis.io/component=syndesis-db' --no-headers=true -
```

```
o=custom-columns=x:.metadata.name) -- bash -c "echo SELECT schemaname, relname,
n_live_tup, n_dead_tup, last_autovacuum FROM pg_stat_all_tables WHERE relname =
'jsondb'|psql -U syndesis"
```

```
schemaname | relname | n_live_tup | n_dead_tup |      last_autovacuum
-----+-----+-----+-----+-----
public      | jsondb      |    26893 |   491210 | 2019-07-17 09:26:51.264029+00
(1 row)
```

since there are 491210 dead tuples, perform the following

scale down the server

```
$ oc scale --replicas=0 dc syndesis-server
```

terminate all running connections

```
$ oc exec -c postgresql $(oc get pod -l 'syndesis.io/component=syndesis-db' --no-headers=true -
o=custom-columns=x:.metadata.name) -- bash -c "echo SELECT pg_terminate_backend(a.pid)
FROM pg_locks l join pg_stat_activity a ON a.pid = l.pid WHERE l.mode = 'ExclusiveLock' AND
a.username = 'syndesis'|psql -U syndesis"
```

FATAL: terminating connection due to administrator command

server closed the connection unexpectedly

This probably means the server terminated abnormally
before or while processing the request.

connection to server was lost

command terminated with exit code 2

the preceding FATAL error is expected, because the statement also closes the connection psql
is using

execute `VACUUM FULL ANALYZE`

```
$ oc exec -c postgresql $(oc get pod -l 'syndesis.io/component=syndesis-db' --no-headers=true -
o=custom-columns=x:.metadata.name) -- bash -c "echo VACUUM FULL ANALYZE jsondb|psql -
U syndesis"
VACUUM
```

scale up server

```
$ oc scale --replicas=1 dc syndesis-server
```

5458 Operator tries to update outdated Syndesis resource

Operator を使用して Fuse Online をインストールすると、以下のエラーが複数回発生しますが、インストール自体に大きな影響はないため、無視しても問題はありません。

```
{"level":"error","ts":1558617960.2453232,"logger":"controller","msg":"Error
reconciling","action":"*action.startupAction","phase":"Starting","error":"Operation cannot be fulfilled
on syndesises.syndesis.io \"app\": the object has been modified; please apply your changes to the
latest version and try
again","stacktrace":"github.com/syndesisio/syndesis/install/operator/vendor/github.com/go-
logr/zapr.
(*zapLogger).Error\n\t/go/src/github.com/syndesisio/syndesis/install/operator/vendor/github.com/go-
logr/zapr/zapr.go:128\ngithub.com/syndesisio/syndesis/install/operator/pkg/controller/syndesis.
(*ReconcileSyndesis).Reconcile\n\t/go/src/github.com/syndesisio/syndesis/install/operator/pkg/contrc
er/syndesis/syndesis_controller.go:120\ngithub.com/syndesisio/syndesis/install/operator/vendor/sigs.
8s.io/controller-runtime/pkg/internal/controller.
(*Controller).processNextWorkItem\n\t/go/src/github.com/syndesisio/syndesis/install/operator/vendor/
sigs.k8s.io/controller-
```

```
runtime/pkg/internal/controller/controller.go:215\ngithub.com/syndesisio/syndesis/install/operator/vendor/sigs.k8s.io/controller-runtime/pkg/internal/controller.  
(*Controller).Start.func1\n\tgo/src/github.com/syndesisio/syndesis/install/operator/vendor/sigs.k8s.io/controller-  
runtime/pkg/internal/controller/controller.go:158\ngithub.com/syndesisio/syndesis/install/operator/vendor/k8s.io/apimachinery/pkg/util/wait.JitterUntil.func1\n\tgo/src/github.com/syndesisio/syndesis/install/operator/vendor/k8s.io/apimachinery/pkg/util/wait/wait.go:133\ngithub.com/syndesisio/syndesis/install/operator/vendor/k8s.io/apimachinery/pkg/util/wait.JitterUntil\n\tgo/src/github.com/syndesisio/syndesis/install/operator/vendor/k8s.io/apimachinery/pkg/util/wait/wait.go:134\ngithub.com/syndesisio/syndesis/install/operator/vendor/k8s.io/apimachinery/pkg/util/wait.Until\n\tgo/src/github.com/syndesisio/syndesis/install/operator/vendor/k8s.io/apimachinery/pkg/util/wait/wait.go:88"}}
```

ENTESB-10577 Apicurito does not support YAML Open API spec files

Fuse 7.4 on OpenShift では、Apicurito はデフォルトで OpenAPI 仕様ファイルを YAML 形式で生成しますが、生成された YAML ファイルを再インポートできません。現在、JSON 形式のみを Apicurito にインポートできます。

698 DB Connector: SQL parser doesn't recognize parameters for LIKE

LIKE キーワードを含む SQL ステートメント（例：**DELETE FROM TODO WHERE task LIKE '#:param'**）では、**LIKE** キーワードを **:# param** などのデータマッパーパラメーターと併用することはできません。

7.3. FUSE ON OPENSIFT

このセクションでは、OpenShift 上の Fuse アプリケーションのデプロイメントに影響する問題を取り上げます。特定のコンテナに影響する問題の詳細は、Spring Boot、Fuse on Apache Karaf、および Fuse on JBoss EAP のセクションも参照にしてください。Fuse on OpenShift ディストリビューションの既知の問題を以下に示します。

ENTESB-12941 prometheus doesn't work with OCP 4.4

Fuse 7.5.0 では、Fuse 7.5.0 でパッケージ化された Prometheus イメージは OpenShift Container Platform (OCP) 4.4 では機能しません。OCP 4.4 に Fuse 7.5.0 Prometheus イメージのインストールを試みると、以下のエラーが発生します。

```
error: unable to recognize no matches for kind "Deployment" in version "apps/v1beta2"
```

ただし、この問題は OCP 4.3 の Prometheus には影響しません。

ENTESB-11712 [Hawtio] Add a configuration in OSGi doesn't work

OCP 3.11 上の Fuse 7.5.0 では、OCP 3.11 の Apache Karaf で Fuse Console (Hawtio) を使用する場合に、OSGi タブの Add configuration ボタンが機能しません。

ENTESB-12224 Fuse console - Select a container dropdown vague behaviour

OCP 4 および OCP 3 上の Fuse 7.5.0 では、Fuse Console でアプリケーションに接続した後、**Select a container** ドロップダウンメニューの動作が不安定になり、デプロイされた他の Fuse コンテナが表示されたりされなかったりします。

ENTESB-11131 OLM manifest for the Fuse Console operator

OCP 4 の Fuse 7.5.0 では、OperatorHub から Operator を使用して Fuse Console (Hawtio) をインストールすることはできません。

ENTESB-12241 OSGi pages not working on OCP 4.1

OCP 4 の Fuse 7.5.0 では、OCP 4.1 上の Apache Karaf にデプロイされたアプリケーションを Fuse Console (Hawtio) を介して監視するときに OSGi ページを表示できません。

ENTESB-12238 [SB2] Quickstarts arquillian test fail

Fuse 7.5.0 では、Spring Boot 2 クイックスタートの一部 (Maven archetype またはクイックスタートテンプレートから生成された) が OpenShift へのビルドおよびデプロイに失敗します。影響を受ける Spring Boot 2 Maven archetype は次のとおりです。

- **spring-boot-camel-archetype**
- **spring-boot-camel-infinispan-archetype**
- **spring-boot-cxf-jaxrs-archetype**
- **spring-boot-cxf-jaxws-archetype**

影響を受ける Spring Boot 2 テンプレートは次のとおりです。

- **spring-boot-2-camel-template**
- **spring-boot-2-camel-infinispan-template**
- **spring-boot-2-cxf-jaxrs-template**
- **spring-boot-2-cxf-jaxws-template**

この問題を回避するには、これらのクイックスタートの1つに Maven プロジェクトを生成した後に、プロジェクトの Maven **pom.xml** ファイルを編集し、以下の依存関係を追加します。

```
<dependency>
  <groupId>org.assertj</groupId>
  <artifactId>assertj-core</artifactId>
  <version>2.4.1</version>
  <scope>test</scope>
</dependency>
```

ENTESB-10577 Apicurito does not support YAML Open API spec files

Fuse 7.4 on OpenShift では、Apicurito はデフォルトで OpenAPI 仕様ファイルを YAML 形式で生成しますが、生成された YAML ファイルを再インポートできません。現在、JSON 形式のみを Apicurito にインポートできます。

7.4. FUSE ON SPRING BOOT

Fuse on Spring Boot の既知の問題は次のとおりです。

ENTESB-12137 [camel-box] not working on SB2

Fuse 7.5.0 リリースでは、Camel Box コンポーネントは Spring Boot 2 コンテナでは動作しません。

7.5. FUSE ON APACHE KARAF

Fuse on Apache Karaf の既知の問題は次のとおりです。

ENTESB-12105 [camel-salesforce-quickstart] Camel salesforce quickstart is not working on Karaf

Fuse 7.5.0 では、Apache Karaf **camel-salesforce** クイックスタートの README に記載されている手順に従っても、アプリケーションはビルドされません。この問題を回避するには、(README ファイルで説明されているように) コマンド **mvn -Pgenerate-pojos clean install** を使用してクイックス

タートをビルドする代わりに、以下のコマンドを入力します。

```
mvn clean install
```

つまり、Maven コマンドで **-Pgenerate-pojos** オプションを省略します。

ENTESB-8140 ホットデプロイバンドルの開始レベルはデフォルトで 80

Fuse 7.0 GA リリースの Apache Karaf コンテナでは、ホットデプロイバンドルの開始レベルがデフォルトで 80 になっています。これにより、同じ開始レベルを持つシステムバンドルや機能が多く存在するため、ホットデプロイバンドルに問題が発生することがあります。この問題を回避し、ホットデプロイバンドルが確実に開始するようにするには、**etc/org.apache.felix.fileinstall-deploy.cfg** ファイルを編集し、**felix.fileinstall.start.level** 設定を以下のように変更します。

```
felix.fileinstall.start.level = 90
```

ENTESB-7664 framework-security 機能をインストールすると、karaf を終了する

--no-auto-refresh オプションを使用して **framework-security** OSGi 機能をインストールしないと、Apache Karaf コンテナがシャットダウンします。以下に例を示します。

```
feature:install -v --no-auto-refresh framework-security
```

7.6. APACHE CAMEL

Apache Camel の既知の問題は次のとおりです。

ENTESB-12210 XPath evaluation fails with null body using Saxon-HE-9.8.0-8_1

Fuse 7.0 以降、Saxon が JAXP プロバイダーとして使用されている場合に null ヘッダーまたはボディに対して xpath 式を実行すると、NullPointerException (NPE) が出力されます。

ENTESB-12050 [camel-jetty] java.lang.NoClassDefFoundError: org/eclipse/jetty/util/MultiPartInputStreamParser

Fuse 7.5.0 以降、**multipartFilter** オプション（または **multipartFilterRef** オプション）を設定して Jetty9 コンポーネントでカスタムマルチパートフィルターを定義する場合、新しい **org.apache.camel.component.jetty.MultiPartFilter** クラスを拡張してカスタムマルチパートフィルターを実装する必要があります。（非推奨） **org.eclipse.jetty.servlets.MultiPartFilter** クラスを拡張して定義されたフィルター実装がすでにある場合は、代わりに **org.apache.camel.component.jetty.MultiPartFilter** を拡張してこのクラスを再実装する必要があります。

org.eclipse.jetty.servlets.MultiPartFilter を Fuse 7.5.0 の Apache Karaf コンテナに拡張して実装された古いカスタムフィルターをデプロイすると、**java.lang.NoClassDefFoundError** が得られます。これは、非推奨の **org.eclipse.jetty.servlets.MultiPartFilter** クラスが、Jetty 9.4.20 から削除された非推奨の **org.eclipse.jetty.util.MultiPartInputStreamParser** クラスを使用するためです。

ENTESB-10490 camel-jetty9 with https does not work on IBM java

Camel Jetty9 コンポーネントのデフォルトのセキュリティ設定は IBM Java 仮想マシンと互換性がありません。IBM Java 仮想マシンの Camel Jetty9 コンポーネントで TLS セキュリティを使用するには、Jetty9 コンポーネントで TLS セキュリティ設定を明示的に設定する必要があります。

ENTESB-12102 Camel-box quickstart is not working

Fuse 7.5.0 では、サンプルアプリケーションの実行時に **camel-box** クイックスタートでエラーが発生します。この問題を回避するには、**camel-box/src/main/resources/OSGI-INF/blueprint/box.xml** ファイルを編集し、ルート定義の末尾付近にある以下の行を探します。


```
<to uri="box:files/uploadFile"/>
```

これを以下の行に置き換えます(**check=false** URI オプションが追加されます)。

```
<to uri="box:files/uploadFile?check=false"/>
```

ENTESB-11060 [camel-linkedin] V1 API is no longer supported

Fuse 7.4.0 以降、Camel LinkedIn コンポーネントが LinkedIn サーバーと通信できなくなりました。これは、LinkedIn でサポートされなくなった LinkedIn Version 1.0 API を使用して実装されているためです。Fuse の今後のリリースで Camel LinkedIn コンポーネントが更新され、Version 2 API を使用するようになる予定です。

ENTESB-5231 PHP script language does not work

PHP の OSGi バンドルがないため、PHP スクリプト言語は Apache Karaf コンテナ上の Camel アプリケーションでサポートされません。

ENTESB-5232 Python 言語は機能しない

Python の OSGi バンドルがないため、Python スクリプト言語は Apache Karaf コンテナ上の Camel アプリケーションでサポートされません。

ENTESB-2443 Google Mail API - メッセージの送信と下書きが同期されていない

メッセージまたは下書きを送信すると、応答には ID を持つ Message オブジェクトが含まれます。API への別の呼び出しを介してこのメッセージを即座に取得できない可能性があります。このような場合、待機して呼び出しを再試行する必要があります。

ENTESB-2332 Google Drive API JSON の変更への応答は、最初のページのアイテムの不正な数を返す

変更に対する Google Drive API JSON 応答によって返される最初のページのアイテム数は適切ではありません。リスト操作の **maxResults** を設定すると、最初のページにすべての結果が返されないことがあります。この場合、複数のページを確認して完全リストを取得する必要があります (新しいリクエストに **pageToken** を設定して行います)。

第8章 FUSE 7.5.1 で解決された問題

Fuse 7.5.1 リリースでは、Fuse Online インテグレーションのアップグレードの問題が解決されました。Fuse Online 7.4 インテグレーションを 7.5 にアップグレードする場合のみ、Fuse 7.5.1 リリースが必要です。つまり、Red Hat Fuse 7.5.1 は完全リリースではありません。これには、Fuse Online を制御する Operator の更新のみが含まれています。

以下の表に Fuse 7.5.1 で解決された問題を示します。

表8.1 Fuse 7.5.1 で解決された問題

問題	説明
ENTESB-12327	komodo イメージがないため、7.4 から 7.5 へのアップグレードが停止する。
ENTESB-12328	Postgres を 9.5 から 9.6 にアップグレードすると古いデータディレクトリーを使用しない。
ENTESB-12350	Fuse Online 1.5 で OAuth Proxy SAR をオーバーライドできない。

第9章 FUSE 7.5 で修正された問題

以下のセクションには、Fuse 7.5 で修正された問題が記載されています。

- [「Fuse 7.5 で改良された機能」](#)
- [「Fuse 7.5 の機能リクエスト」](#)
- [「Fuse 7.5 で明確化された機能」](#)
- [「Fuse 7.5 で解決されたバグ」](#)

9.1. FUSE 7.5 で改良された機能

以下の表に Fuse 7.5 で改良された機能を示します。

表9.1 Fuse 7.5 で改良された機能

問題	説明
ENTESB-11130	OpenShift 4 の新しい Fuse Console ゲートウェイのアクティブ化
ENTESB-10853	pax ロギングがログマーカをサポートする必要がある
ENTESB-10394	監査ロギングの改良: 認証試行のロギング元
ENTESB-10117	Syndesis-UI ユーザーインターフェイスのカスタマイズオプション
ENTESB-11211	メッセージの処理中にリクエストリプライメッセージのある CXF JMS トランSPORTが一時キューを削除する
ENTESB-11015	spring-boot-camel-infinispan: infinispan サーバーの自動ダウンロードのサポート
ENTESB-11660	camel-cxf CxfEndpoint が cxf Interanl api の使用を回避する
ENTESB-11640	DeploymentConfig への更新の許可
ENTESB-11479	Box: box コネクターのフィールドへのマッピングを許可
ENTESB-10995	ターゲット EAP バージョンを確認するインストーラー制約の緩和
ENTESB-10841	[Hawtio] HTTP 403 レスポンスの処理を改良
ENTESB-9000	すべてのクイックスタートを同じデプロイ方法で統一
ENTESB-10291	camel-undertow が大規模なデータストリームを処理できない
ENTESB-11380	Pax Logging 1.11.0 へのアップグレード (つまり Karaf 4.2.7)

問題	説明
ENTESB-11474	新しい API クライアントウィザードで認証タイプに関する情報を提供
ENTESB-11616	JWS 3.1.7 および 5.0.3 への対応
ENTESB-11763	DynamoDB UI の改善
ENTESB-10811	EAP を再インストールせずに EAP 7 にパッチを適用する機能
ENTESB-11934	製品化された DV Operator CSV にクリーンアップが必要

9.2. FUSE 7.5 の機能リクエスト

以下の表に Fuse 7.5 の機能リクエストを示します。

表9.2 Fuse 7.5 の機能リクエスト

問題	説明
ENTESB-11510	Syndesis-UI ユーザーインターフェイスのカスタマイズオプション
ENTESB-11338	Fuse Online クライアントによる 3scale 管理の API の使用
ENTESB-10283	組み込み camel-undertow コンシューマーエンドポイントによるロギングサポートへのアクセス
ENTESB-11595	Fuse on Openshift の SB2
ENTESB-11514	API プロバイダー: エラー処理の改善
ENTESB-11495	DynamoDB コネクタ
ENTESB-11503	アップグレードの Operator サポート
ENTESB-11489	インストール方法の集約
ENTESB-11494	条件付きフローの改良
ENTESB-11493	Box コネクタの集約
ENTESB-10899	Syndesis でパブリッシュされた Virtualization のコネクションを作成
ENTESB-10894	Syndesis のデータインテグレーションで Salesforce とソースとしてサポート
ENTESB-10892	View data のプレビューを表示する UI

問題	説明
ENTESB-10370	重複プロパティの削除
ENTESB-10301	Salesforce コンポーネントでの Change Data Capture イベントのサポートを追加
ENTESB-10194	インテグレーション Pod のデプロイメント設定に環境変数を設定する方法の提供
ENTESB-10269	FTP/FTPS の CamelFtpReplyCode および CamelFtpReplyString など SFTP のステータスエラーレスポンスコードのヘッダー
ENTESB-10186	Fuse Online: デモデータおよびアプリケーションなしで Fuse Online をオンプレミスでインストールするオプション。
ENTESB-11499	[Syndesis] MongoDB コネクター - TP 機能
ENTESB-10282	pax-web undertow http web サービスの record-request-start-time アクセスロギングオプション
ENTESB-11505	IMAP/POP/SMTP メールコネクター
ENTESB-11513	Jira コネクター
ENTESB-10896	MongoDB を Syndesis の Data Source としてサポートを提供
ENTESB-11491	メールコネクターの集約
ENTESB-11492	Jira コネクターの集約
ENTESB-10500	VDB をデプロイするための OpenShift Operator の開発
ENTESB-11772	operator ベースでない環境用の Fuse Online 7.5 をインストールするテンプレートを提供
ENTESB-10498	OData ソースサポートの提供
ENTESB-11693	Hawtio v2 のカスタムプラグインメカニズムのリカバリー
ENTESB-10886	データソースとしての OpenAPI サポート
ENTESB-10496	SpringBoot での REST アクセスの提供

9.3. FUSE 7.5 で明確化された機能

以下の表には Fuse 7.5 で明確化された機能が記載されています。

表9.3 Fuse 7.5 で明確化された機能

問題	説明
ENTESB-11366	[operator] デフォルトでデプロイされるべきバージョン
ENTESB-11707	Syndesis CR がアップグレードイメージに設定可能なタグを必要とする可能性がある
ENTESB-10992	Openshift 4 で karaf + cxf をテストする方法
ENTESB-11339	Syndesis デプロイメントでサポートされているすべての設定オプションの判断

9.4. FUSE 7.5 で解決されたバグ

以下の表に Fuse 7.5 で解決されたバグを示します。

表9.4 Fuse 7.5 で解決されたバグ

問題	説明
ENTESB-12237	Camel-k: 2.21.0.fuse-750033-redhat-00001 のカタログが見つからない
ENTESB-12216	fuse7-fuse-java-openshift:1.5-14 に奇妙な rpm (scl-utils) が含まれる
ENTESB-12212	[SB2] Configmap ブースターが他のブースターとは違うヘルスチェックを使用する
ENTESB-12207	fuse-java-openshift イメージの Jolokia オプションが間違っている
ENTESB-12202	[SB2] ランタイムで RBAC ポリシーが一致しない ブースターサーキットブレーカーが失敗する
ENTESB-12182	[SB2][narayana-spring-boot-recovery-controller] NoClassDefFoundError: io/fabric8/kubernetes/api/model/extensions/StatefulSet
ENTESB-12165	[Apicurito] シナリオ更新が適切に機能しない
ENTESB-12143	Fuse Online が online-stg クラスタでプロビジョニングされない
ENTESB-12142	[OCP4][SB2] OCP3 vs OCP4 ブースターのリグレッション
ENTESB-12138	[SB2] サーキットブレーカーブースターが動作しない
ENTESB-12133	Fuse Online テンプレート: Datavirt が見つからない

問題	説明
ENTESB-12107	[ER2] karaf-camel-amq S2I が存在しない環境変数 AMQP_SERVICE_PORT を検索する
ENTESB-12089	SB1/SB2 FMP Statefulset 作成でのリグレッション
ENTESB-12084	[SB2] Configmap ブースター - Configmap の変更が反映されない
ENTESB-12071	[ER2] Fuse Console の奇妙な動作
ENTESB-12050	[camel-jetty] java.lang.NoClassDefFoundError: org/eclipse/jetty/util/MultiPartInputStreamParser
ENTESB-11864	[ER1] SB 2 クイックスタートに稼働しない readiness/liveness がある
ENTESB-11784	[ER1] Camel-k イメージからのカーネルバイナリーが非製品化バージョンを出力する
ENTESB-11726	CXF が JDK-8211883 を受け入れるよう確認
ENTESB-11719	OData で Resource Collection を選択すると存在しないリソースコレクション名の挿入が可能になる
ENTESB-11435	[datamapper] 変換の区切り文字が保存されない
ENTESB-11398	[Conditional Flow] datashape の変更が条件に伝搬されない
ENTESB-11378	operatorhub を使用して Apicurito をインストールできない
ENTESB-11204	offliner マニフェストが誤ったバージョンを使用して RH アーティファクトを参照する
ENTESB-11198	offliner ツールは repo.spring.io/plugins-release からアーティファクトをダウンロードする必要がありますが、Authorized ではありません。
ENTESB-11188	Windows Service としての Fuse が初期起動に失敗する
ENTESB-10694	OCP4.1 beta 上での Fuse Console の使用に問題がある
ENTESB-10277	org.jboss.redhat-fuse:maven-bundle-plugin は使用されないが使用されるべきである
ENTESB-10188	[Hawtio] 誤ったデータで新しいエンドポイントが作成されてもエラーメッセージが出力されない
ENTESB-11420	インテグレーションでコネクションを設定すると空白画面が表示される

問題	説明
ENTESB-11397	API プロバイダーの無効な API 指定フォーム URL にエラーが表示されない
ENTESB-11401	最新の syndesis の todo アプリケーションで新しいエントリーを作成できない
ENTESB-11404	go to operation リストを API プロバイダーに追加
ENTESB-11399	Datamapper: マッピングを 2 回削除しないと消去できない
ENTESB-11394	テンプレートが txt 以外のファイルタイプを受け入れない
ENTESB-11387	PublicAPI: タグはすでに存在し、インテグレーションは存在しない場合、インポート後にタグが重複する。
ENTESB-11388	パブリッシュしたインテグレーションがトリガーされないと、稼働時間が No Data Available になる。
ENTESB-11391	Database Invoke ストアドプロシージャアクションドロップダウンメニューが設定で空である
ENTESB-11390	新規コネクションの作成: コネクションリスト項目が大きすぎる
ENTESB-11383	[camel-k] インテグレーションのパブリッシュを試みる際に Namespace パラメーターが必要
ENTESB-11386	CI/CD UI が重複をチェックしない
ENTESB-11384	FHIR アクションページがロードで停止する
ENTESB-11374	Failure running activity tracking task on thread: Logs Controller [idle]java.lang.NullPointerException: null
ENTESB-11370	[syndesis] install_ocp.sh --setup --camel-k --verbose を実行すると camel-k ダウンロードが実行されます。
ENTESB-11377	Fuse Online インストール 1.7.25 はヘルスインデックス F の廃止されたイメージから prometheus をインストールする
ENTESB-11351	[operator] syndesis-pull-secret (または存在しない場合は最初に作成) から syndesis-operator SA へのリンク
ENTESB-11331	camel-undertow で http エンドポイントをブリッジングするとポディーが spool のしきい値を越える場合に Error during type conversion from type: org.apache.camel.converter.stream.FileInputStreamCache to the required type が出力される

問題	説明
ENTESB-11328	Webhook および API プロバイダーを使用したインテグレーションの作成に一貫性がない
ENTESB-11329	manage in 3scale と do not expose via 3scale の使用後に黒画面になる。
ENTESB-11320	[アップグレード] Operator のエラーによってアップグレードが終了しない
ENTESB-11321	Operator はデフォルトでは最新にアップグレードされない
ENTESB-11283	[camel-olingo4] EAP 上の誤ったモジュール依存関係
ENTESB-11282	Google カレンダーのカレンダー選択ドロップダウンメニューがテキスト入力に変更
ENTESB-11268	Fuse Online: ユーザー名の間にコンマがあるとインストールに失敗する
ENTESB-11270	soap の失敗が出力される間に cxf ヘッダーを設定
ENTESB-11274	Syndesis operator はデフォルトで最新の syndesis をデプロイする
ENTESB-11273	列名が設定されていない場合に Google のスプレッドシートでデータタイプが変更される
ENTESB-11272	カレンダー ID が選択からテキスト入力に変更
ENTESB-11264	syndesis-server-config で代替の Maven リポジトリを指定する方法が必要
ENTESB-11263	operator によって openshift リソースが元の状態に自動的にリセットされる
ENTESB-11265	syndesis インテグレーションを実行できない
ENTESB-11247	Virtualization の詳細ページにパブリッシュの状態が含まれない
ENTESB-11245	TODO アプリケーションを介したタスクの挿入、更新、削除に失敗
ENTESB-11251	MySQL コネクションで Import Data Source ウィザードが表示されない
ENTESB-11252	ボタンのある下部パネルの余白が大きすぎる
ENTESB-11253	コネクションフォームにツールチップが表示されない
ENTESB-11242	事前定義された PostgresDB コネクションからのビューを作成できない
ENTESB-11243	SQL コネクションでない

問題	説明
ENTESB-11238	条件付きフロー UI にずれがあり、Move ボタンが機能しない。
ENTESB-11235	Fuse および FO operator は Openshift 4 の Operatorhub から利用できない
ENTESB-11191	Flaky Test の PubNubPresenceTest.testPresence の問題修正
ENTESB-11171	history コマンドによって NPE が出力される
ENTESB-11166	CAMEL-12451 の Fuse 7.3 へのバックポートリクエスト
ENTESB-11146	NoSuchMethodError で ConsulIntegrationTest に失敗する
ENTESB-11148	redhat-fuse-7.5.0.fuse-sb2-750001.pom は複数の 7.4.0 アーティファクトを参照する (一部利用できなくなったものを含む)
ENTESB-11137	メタデータ/スキーマが DV のデータベースからの最新更新を反映しない
ENTESB-11128	[Apicurito] Apicurito の About ダイアログの CSS が破損
ENTESB-11121	[camel-yammer] Spring-boot-2 で olderThan オプションが動作しない
ENTESB-11111	[Hawtio operator] hawtio-online の最新タグが動作しない
ENTESB-11066	空のボディーの camel http4 例外
ENTESB-11070	MTOM アタッチメントと組み合わせた WS-Security
ENTESB-11059	[karaf-maven-plugin] クライアントゴール + スクリプトの実行が動作しない
ENTESB-12083	サーキットブレーカーブースターのプラグインにバージョンが明示的に設定されていない
ENTESB-12030	[ER2] Quickstarts が存在しない GIT_REF を検索する
ENTESB-12008	[ER2] DV operator がビルダーイメージをビルドできない
ENTESB-12001	Data Virtualization の作成が機能しない
ENTESB-11977	DV operator の S2i イメージの上書きを許可
ENTESB-11937	DV operator に代替の maven リポジトリを指定する方法が必要
ENTESB-11927	[ER1] dv-operator がコミュニティアーティファクトから VDB をビルドする

問題	説明
ENTESB-11926	[ER1] dv-operator がコミュニティ s2i イメージを使用して VDB をビルドする
ENTESB-11920	[ER1][OCP4] Prometheus インストールが機能しない
ENTESB-11911	FHIR- create: Error retrieving resource schema for type...
ENTESB-11902	Syndesis サーバーが利用できないと SQL コネクションがブロックされる
ENTESB-11844	Import data source ページに Salesforce コネクションが表示されない
ENTESB-11843	Salesforce コネクションのドロップダウンではなくテキストフィールド
ENTESB-11838	camel-kafka の記述に問題あり
ENTESB-11825	サービスとして Karaf が rhel で機能しない
ENTESB-11831	[ER1 Fuse Console] Operator がコミュニティバージョンの hawtio をデプロイする
ENTESB-11821	[ER1] Spring Boot 2 クイックスタートのデプロイに失敗
ENTESB-11822	[7.5 ER1] 不足しているアーティファクトがあるため Data Virtualizations がデプロイされない
ENTESB-11794	Spring Boot 2 BOM 内にないアーティファクト
ENTESB-11792	[ER1] fis-console-namespace-template.json の破損
ENTESB-11786	デプロイメント設定テンプレートにハードコードされた syndesis コンテナ名が含まれる
ENTESB-11766	アップグレード後にインテグレーションを再構築できない
ENTESB-11768	[ER1] Camel-k が動作しない
ENTESB-11764	[ER1] クイックスタートに誤ったバージョンの BOM が含まれる
ENTESB-11758	動的アクションメタデータの検索フォームフィールドのレンダリングを復元
ENTESB-11756	Hibernate が org.hibernate.proxy パッケージをエクスポートしない
ENTESB-11716	17 個の機能をインストールできない

問題	説明
ENTESB-11700	Salesforce VDB の公開時のエラー
ENTESB-11698	Import Data Source は Salesforce コネクションの1つのスキーマのみを表示する
ENTESB-11704	AWS DynamoDB 例 の json が動作しない
ENTESB-11692	仮想化がインテグレーションによって使用されているときにアンパブリッシュを禁止
ENTESB-11695	Syndesis CR を無効化するよう DV が設定されていても DV UI が有効になる
ENTESB-11690	Fuse Online インテグレーションをスケーリングすると状態が誤って Stopped に設定される
ENTESB-11683	Syndesis CR でイメージタグの設定するとデプロイメントができない
ENTESB-11674	エラーメッセージを閉じた後もダイアログに表示される
ENTESB-11672	SQL Client の結果を水平にスクロールできない
ENTESB-11678	CAMEL-13986 のバックポート
ENTESB-11677	CAMEL-13983 のバックポート
ENTESB-11679	CAMEL-13994 のバックポート
ENTESB-11676	CAMEL-12891 のバックポート
ENTESB-11669	Prometheus イメージストリームから docker レジストリーを削除
ENTESB-11656	CXF LoggingInterceptor
ENTESB-11653	インテグレーションをタグに応じて PublicApi 経由でエクスポートできない
ENTESB-11647	プレビューセクションの更新によるユーザービリティの向上
ENTESB-11644	DV Details ページのタイトルエリアの改善
ENTESB-11643	ビューまたは仮想化を作成する際に Cancel ボタンを追加
ENTESB-11649	AWS DynamoDB - 存在しないテーブル名でも検証が成功する
ENTESB-11632	MySQL データソースのプレビューデータによって例外が出力される

問題	説明
ENTESB-11628	データマッピングステップにデータが含まれない
ENTESB-11607	作成されたビューに 2 つ目のテーブル名がない
ENTESB-11608	ボタンのあるフッターの一貫性がない
ENTESB-11599	インテグレーションでコネクタを 2 回使用すると、最初に追加したものとは異なるアクションを選択できない。
ENTESB-11598	Virtualizations ページ
ENTESB-11593	Slack でチャネル名を選択すると存在しないチャネル名を挿入できる
ENTESB-11578	条件付きフロー式の形式のユーザービリティ
ENTESB-11576	Pod をアップグレードすると oc コマンドを実行できない
ENTESB-11577	一覧からアイテムを選択しようとする和不具合が発生
ENTESB-11436	DB DELETE と DELETE の後にインテグレーションフローが続行されない
ENTESB-10993	camel-hystrix および camel-rx をインストールできない (再発生)
ENTESB-10923	[クイックスタート] camel-linkedin クイックスタートが動作しない
ENTESB-10925	camel rest && swagger が SB2 で正常に動作しない
ENTESB-10924	camel-linkedin: accessToken が設定された場合
ENTESB-10912	[Hawtio] Web ブラウザーウィンドウを拡張すると Camel チャートが誤って表示される
ENTESB-10883	CXF バスを OSGi サービスとして公開して他のバンドルで参照
ENTESB-10865	チェリーピックコミット
ENTESB-10854	CamelBlueprintTestSupport が useOverridePropertiesWithPropertiesComponent() への呼び出しを 2 回行う
ENTESB-10837	CAMEL-12947 のバックポート
ENTESB-10826	UI ボタンの配置
ENTESB-10739	camel-mail が依存すべき com.sun.mail:javax.mail:jar に依存しない

問題	説明
ENTESB-10671	camel-jdbc トランザクションが動作しない
ENTESB-10521	Fuse Console の Preferences に表示されないアイテムがある
ENTESB-10354	karaf-cxf-rest: Warning: Overwriting existing default context
ENTESB-9112	fabric8-project-bom-camel-spring-boot に CXF 依存関係がない
ENTESB-7748	spring-boot-camel クイックスタートの見直しと改良
ENTESB-10167	[Hawtio] Preferences の負の値
ENTESB-11322	Karaf 上の Red Hat Fuse 7.4 でコマンドをクライアントスクリプトの引数として実行できない
ENTESB-12073	[ER2][SB2] アプリケーションテンプレートが存在しないタグを示す
ENTESB-12039	Syndesis DB が OpenShift 4.2 にデプロイされない
ENTESB-12018	Syndesis サーバー設定に integrationLivenessProbeInitialDelaySeconds が ない
ENTESB-12069	[ER2] Readiness プローブが動作しないためカスタム Karaf アプリケーシ ョンに失敗する
ENTESB-11423	新しい UI でメールコネクションを作成できない
ENTESB-11862	[ER1] spring-boot-camel-rest-3scale のデプロイ方法の統一
ENTESB-11765	[ER1] spring-boot-camel-xml が誤った FMP バージョンをプルする
ENTESB-11970	syndesis-dv サーバーに大量の CPU リソースが必要
ENTESB-11630	テーブルの自動補完一覧が修飾されていない
ENTESB-11781	Preview Table が複数行の列データを表示する
ENTESB-11246	Virtualization のパブリッシュ中に UI が ERROR を表示する
ENTESB-11611	rhpdv で VDB のパブリッシュに失敗
ENTESB-11790	syndesis-dv Pod ログで VDB のパブリッシュによってエラーが出力される
ENTESB-11849	[ER1] spring-boot-camel-infinispan に eadiness/liveness プロブがない

問題	説明
ENTESB-11717	AWS DynamoDB テクノロジープレビューラベル
ENTESB-11639	インテグレーションの削除時のエラー Forbidden!Configured service account doesn't have access
ENTESB-11959	編集によってすでにインテグレーションが作成されているとデータマッパーが失敗する
ENTESB-11711	Syndesis Operator が誤った変更を syndesis-server リソースに適用
ENTESB-10902	リポジトリとして Postgresql を使用するクラスター環境で Camel の集約に失敗する
ENTESB-11916	[ER1] 引用符で囲まれていない名前があるため Operator はイメージストリームを作成できない
ENTESB-11395	Filter old results がオンになっていると OData コネクターが null 値を更新する
ENTESB-11857	Spring Boot 1 BOM 内に camel-starters がない
ENTESB-11863	[ER1] FMP にクラスがないため SB2 クイックスタートが動作しない
ENTESB-11783	[ER1] カスタム karaf アプリケーションが null バンドルで失敗する
ENTESB-11685	インテグレーション名がすでに使用されているとエラーメッセージがない
ENTESB-12054	spring-jdbc 機能による camel コンポーネントのロードの障害
ENTESB-12048	JIRA コネクターはテクニカルプレビュー
ENTESB-11929	[ER1][OCP4][SB1] configmap を見ると例外が出力される
ENTESB-11735	UI が警告を出さずにパブリッシュエラーを無視する
ENTESB-11164	SB2 BOM に qpid-jms-client がない
ENTESB-11870	受信データシェイプがコレクションであるとデータマッパーは何もマッピングしない
ENTESB-11417	[api client connector] swagger ファイル名が枠外にはみ出す
ENTESB-12044	[ER2] 実稼働ビルドがコミュニティの oauth プロキシを使用する
ENTESB-11662	異なる IP への JDBC バインドアドレス

問題	説明
ENTESB-11867	MongoDB の id での検索操作でエラーが発生する
ENTESB-11721	Syndesis CR でイメージごとに docker レジストリーを指定
ENTESB-11868	MongoDB 挿入操作でエラーが発生し、後のステップがスキップされる。
ENTESB-11853	必須でないフィールドが入力されていないと MongoDB コネクションが検証されない
ENTESB-12010	コマンドシェル: history コマンドが Fuse 7.4.0 で動作しない
ENTESB-12134	DV operator が古い teiid アーティファクトを使用する
ENTESB-12135	Teiid-syndesis が Red Hat の camel バージョンと適合しない
ENTESB-11350	[アップグレード] ロールバック
ENTESB-11415	SQL ステートメントに以前のステップのテキストが含まれる
ENTESB-11989	Syndesis operator は誤ったバージョンの camel および camel-k-runtime を camel-k に渡す
ENTESB-12027	750033-redhat-00002 ER2 にパッチを適用できない
ENTESB-12031	Fuse 7.5.0.ER2 SB BOM に一部のスターターがない
ENTESB-12119	[Apicurito] operator が UI をビルドできない
ENTESB-12147	[Apicurito] operator をテストできない
ENTESB-12131	プルシークレットの作成時に DV install-operator スクリプトが失敗する
ENTESB-12132	DV install-operator スクリプトがマスターリソースの yaml を参照する